

令和4年度

宮崎市総合教育会議

会 議 録

令和4年度 宮崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和4年12月27日(火) 15:30～17:00
- 2 場 所 宮崎市役所本庁舎4階 特別会議室
- 3 出席者 清山市長

【教育委員会】

西田教育長、松尾代表教育委員、畠山教育委員、片山教育委員、小林教育委員

【事務局】

迫田教育局長

長嶺企画財政部長

(企画総務課) 川邊課長、砂田課長補佐、堀課長補佐、佐藤主任主事、野妻主任主事

(学校施設課) 河野課長

(学校教育課) 重盛課長

(教育情報研修センター) 堀之内所長

(生涯学習課) 長田課長

(保健給食課) 井上課長

(文化財課) 白坂課長

(企画政策課) 上口主幹、中村主任主事

- 4 傍聴者 2名

- 5 意見交換

テーマ「新しい時代の教育を見据えた学校における働き方改革について」

(会議録)

堀企画総務課長 補佐	ただいまから、令和4年度宮崎市総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに、会議の主宰者である、清山市長がご挨拶します。
清山市長	<p>本日は、宮崎市総合教育会議にご出席いただき誠にありがとうございます。また、日頃より、教育行政、本市の市政全般にわたりご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。既にご承知のことだと思っておりますが、この総合教育会議は、市長部局、市長である私と、教育委員会、お互いが共通の教育課題や方向性を共有して、共に連携して教育行政を推進していくための設置ということで、今回で10回目の開催となります。コロナの影響で8月の会議開催予定が延期となっていましたが、今回こうして対面で開催することができたことは、大変意味深いことだと思っております。</p> <p>学校が抱える課題は、委員の皆様もご承知のとおり、大変多様化、そして、その中には深刻化している課題もあります。特に、このコロナ禍において、子ども達の教育環境も様々な制約を受けていました。さらには、二次的な影響も多くあろうかと思っておりますが、不登校の児童生徒も増えてまいりました。その間に、GIGAスクールの推進等ICT教育にも取り組まなければならず、そして、教職員の先生方の働き方に関しても様々な社会的な要請があり、課題が山積しているものと理解しています。</p> <p>本市の将来を支える子ども達の教育は、勿論、学校現場だけではなく、家庭環境も非常に重要だと理解しています。我々は、学校現場を支える立場として実践すべきことをしっかり考えていかなければいけないと思っておりますし、市長部局としてもその重要性を認識して、教育行政を推進していきたいと考えています。本日、様々な意見交換を通して、有意義な場となることを期待しています。どうぞよろしく申し上げます。</p>
堀企画総務課長 補佐	ありがとうございました。続きまして、西田教育長がご挨拶します。
西田教育長	<p>本日、清山市長と初めての総合教育会議を開催できたことを、非常に嬉しく思っています。本当にありがとうございます。</p> <p>教育委員会では毎月1回、ここにいらっしゃる教育委員と事務局とで、教育施策の推進について様々な協議を行っています。教育委員会は市政において教育分野を担っていますが、より効果的な施策を展開するためには、清山市長をはじめ、市長部局の皆様方と課題を共有して、課題をどのように解決していくか、一緒に考えて取り組むことが最も大切だと考えていますので、本日の会議が開催できたことを、大変有難く思っています。</p> <p>先ほど市長も申し上げましたけれども、コロナ禍の中で2年半、子ども達と先生方には様々な苦勞がありました。コロナへの対応の他、いじめや不登校、そして特別支援教育の推進、また、学力向上等、学校の課題は山積している状況にあります。</p> <p>このような現状において、教育において最も大切な資源は教師です。先生</p>

	<p>方が働きやすく、子どもと向き合う時間を確保できる環境を目指していきたいと考えています。本日は、平成30年からの取組等もお伝えし、市長と意見交換をしながら、今後の働き方改革についての方向性を共有したいと考えていますので、よろしくお願いします。</p>
堀企画総務課長 補佐	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、本日の会議の流れについて説明します。</p> <p>本日は、お手元にお配りしている資料1の会次第に沿って、17時までの約1時間半、市長、教育長、教育委員の6名で意見交換を行う予定にしています。それでは、意見交換に移らせていただきます。</p> <p>ここからの進行は、清山市長をお願いします。</p>
清山市長	<p>それでは、ここからは私が進行役を務めさせていただきます。</p> <p>はじめに、今回の意見交換のテーマを「新しい時代の教育を見据えた学校における働き方改革について」とした趣旨についてご説明します。</p> <p>先ほど挨拶でも申し上げましたし、教育長もお話しされていましたが、教育における環境は大変厳しくなっています。教員不足が全国的な問題とされている中で、教員採用試験の倍率低下も見られていて、その結果、教育の質の低下が懸念されています。小学校の教員の採用倍率は1倍台でしたでしょうか、私もニュースを見て衝撃を受けたところです。このような現状ですから、様々な人材が学校の先生になって子ども達の教育に携わりたいと思っていただくための取組も必要だと思いますし、また、今いらっしゃる先生方が質の高い学校教育を行っていくためには、本来の子ども達の学習・授業に専念できる執務環境を整えていく必要があると思っています。</p> <p>そうした教職員の負担軽減を図りながら、教職員の人材育成や学習環境の整備・充実に向けた対応に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>宮崎市も新しい予算編成方針の一つに「未来への投資」を挙げ、その中で、教員の人材育成や学習環境の整備・充実について設定しています。</p> <p>子どもにとって充実した学びを保障していくためにも、教職員の働き方や人材育成を進めていく必要があると考えていますので、教育委員の皆様方とそのような点について、意見交換を行いたいと考えています。</p> <p>働き方改革に関しては、まず校務の効率化の他に、いじめや不登校への対応、特別支援教育、部活動やPTA活動等様々な観点があろうかと思えますけれども、最終的には先生方が従来の教育活動に専念できる環境を整えていくことができると考えています。以上が提案理由の説明です。</p> <p>次に、教育委員会の取組について、教育長から説明をお願いします。</p>
西田教育長	<p>それでは、モニター画面をご覧ください。新しい時代の教育を見据えた学校における働き方改革について、これまでの取組状況を説明をします。</p> <p>まず、問題の所在ですが、平成28年度文部科学省の教員勤務実態調査の状況をご覧ください。時間外勤務時間の目標は月45時間以内ですが、左側のグラフが小学校教諭の学内総勤務時間で、55時間から60時間未満が最</p>

も多く、24.4%を占めています。次いで、50～55時間未満は24.0%を占めていて、50～60時間未満の時間外勤務時間が非常に多いことがわかります。右側のグラフですが、中学校の教諭の場合は60時間から65時間未満が最も多く、次いで、55時間から60時間未満が多い状況です。

時間外勤務時間が45時間を超える教諭の割合は、全体で95%以上でした。特に、教頭先生については、全体の98%が45時間以上を超えており、80時間を超えている方も多い状況でした。80時間は過労死ラインとされる基準で、非常に危険な状況です。早急に改善を図る必要があることが明らかになりました。

続いて、この状況を受けまして、本市でも平成30年度に実態調査を行いました。

小学校の状況が上の表です。ご覧のとおり、時間外勤務が45時間以下だったのは全職員の74.5%で、残り25.5%、おおよそ4人に1人が45時間を超えています。当時は改善を図ろうとしていた時期なので、これでも過去に比べて状況が少し好転しています。ただ、特に教頭先生の半数以上は時間外勤務時間が80時間を超える状況でした。

また、下の表、中学校の状況をご覧ください。45時間以下だったのは全職員の45.1%で、残り54.9%、全体の半数以上が45時間を超えていました。特に、教頭先生の8割が80時間を超えている状況でした。

なお、時間外勤務時間が80時間を超えた原因として、アンケート結果では、授業の準備や生徒指導、文書作成等の事務の他、PTAや地域の会議等への出席、中学校では部活動が多く挙げられていました。

そこで、令和元年の12月に、市の方針として「宮崎市立小中学校の教師の勤務時間の上限に関する方針」を定めました。これは最終的に『「時間外勤務の時間」の上限の目安時間が月45時間、年360時間を超えないようにする』ことを目指すもので、その達成のために教育委員会と各小・中学校が取り組むべき内容を「宮崎市立小中学校における働き方改革アクションプラン」にまとめました。

アクションプランでは、当面の目標として、「時間外勤務が月80時間を超える教職員0人へ」と定めています。県も同様の目標を定めていますが、本市では、目標達成のために取り組むべき働き方改革における取組の視点を、「学校の業務改善」、「中学校における部活動指導の負担軽減」、「勤務時間と健康管理を意識した働き方の推進」、「家庭・地域との連携・協働」の4つに整理し、それぞれの視点から取組を進めることとしました。

まず、「学校の業務改善」については、人的配置として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門職を配置しました。また、教員に代わって資料作成や授業の準備、コロナ対応関係の事務作業を行うスクール・サポート・スタッフも配置しています。このスクール・サポート・スタッフは、令和4年9月の補正予算により12月に全校に配置されました。

今年の10月に小・中学校に対して行ったアンケートでは、スクール・サポート・スタッフの配置について、中学校では100%、小学校では98%が「時間外勤務削減に効果がある」と回答していました。このように、教員が行っている授業の準備作業や事務を直接手伝えることができる人員がいることは、先生方にとって非常に有難いのだろうと思います。

また、宮崎県統一の統合型校務支援システム「C4th（シーフォース）」を活用し、児童生徒情報管理の一元化や、文書の受付、回覧についてペーパーレス化の推進を図っています。このシステムを導入して現在、2年目に入っていて、スムーズな事務処理や連絡ができるというところで、学校の会議等の削減にも役立っているようです。

学校のICT環境については、AI型教材等を取り入れ、宿題や授業の時間に活用してしまっていて、環境整備が着々と進んでいると感じています。

この他にも、各学校で行事や計画の見直しを行っていき、これまでは教頭先生が施設の施錠をしていたので、その役割を分散化する取組等も実施しているところではあります。

続いて、2つ目、「中学校における部活動指導の負担軽減」に係る取組です。部活動指導員について、中学校17校に22名を配置しています。アンケートは全中学校に対して実施していますので、配置していない中学校も資料のグラフ内に含まれていますが、「時間外勤務削減に効果がある」と答えたのが14校、「少し効果がある」のが2校でした。部活動指導員が配置されている17校のうち、16校が「効果がある」「少し効果がある」と回答していることから、部活動指導員の配置体制は重要だといえます。また、ボランティアで指導している方もいて、部活動指導員と合わせると、部活動の25%はそのような方達に補っていただいていることとなります。

また、部活の効率的な運営として、活動時間は平日2時間、休日は3時間、休養日は1週間に1回と設定しています。

ほか、大会の見直しも行っています。こちらは、本日ここに参加している松尾代表教育委員が参加されていた頃の校長会から、全体で取り組もうと話していたもので、現在その徹底が進んだ段階です。この見直しも、非常に効果があったと思っています。

続いて、3つ目、「勤務時間と健康管理を意識した働き方の推進」です。現在、出退勤時刻について把握していますが、勤務時間の管理で特に効果があったのは留守番電話の活用です。勤務時間外の連絡は学校ではなく市の代表電話に繋がるようにして学校から切り離れたことで、時間外の苦情の電話対応が随分と減ったようで、小・中学校で大変喜ばれています。

また、児童生徒の登校時間の設定についてです。教頭先生は早朝から出勤します。かつては朝6時に出勤していましたが、児童生徒の登校時間を遅くすれば、その分、先生や教頭先生の出勤時間にもゆとりが生まれますので、各学校ごとに判断しながら取組を進めています。他にも、ストレスチェック

	<p>等を行っているところです。</p> <p>最後に4つ目、「家庭・地域との連携・協働」は、必ずしも学校が担うべきではない業務について、地域や保護者と適切に役割を分担していこうというものです。現在、地域、保護者、地域事務所、学校で構成される学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置を進めています。こちらは、令和4年度時点で56校、来年度に全校に設置される予定です。学校を支える応援者を増やしたいという意図もあり、時間はかかるけれども大きな効果が生まれることを見込んで、取組を推進しています。</p> <p>また、登下校や放課後、夜間見回り等については、青少年育成協議会の方等が一生懸命に対応してくださっていて、本当に頭が下がる思いですが、そのようなご理解もいただいています。</p> <p>他に、保護者への相談窓口の周知とリーフレットを活用した周知については、PTA協議会に全面的に協力をいただいています。</p> <p>このように、教育委員会では、大きく分けると4つの視点から働き方改革に取り組んでいます。その効果ですが、小・中学校全体で平成30年10月と令和4年10月の平均時間外勤務時間を比較しますと、小学校は40時間10分だった時間外勤務の時間が12時間13分減少して28時間27分へ、中学校は、59時間9分から15時間54分減少して43時間15分となっています。ただ、80時間を超えて時間外勤務をした教職員の割合は、小学校は3.9%減って現在0.6%、中学校は16.6%減って10.7%で、「時間外勤務が月80時間を超える教職員0人へ」という目標はまだ達成できていません。今後も取り組むべき課題ですが、ただ、ここが一番厳しいところで、教頭先生については地域との繋がりもありますし、朝の開錠は自分がやらなければならないという意識もありまして、モニターの表をご覧ください。80時間を超えて時間外勤務をした教頭先生の割合は、平成30年度から令和4年度までに小学校では55.4%減、中学校では64.0%減と減少幅は大きいものの、未だに小学校では7.3%、中学校では20.0%を占めており、5人に1人の教頭先生が該当する状況です。</p> <p>このような状況で、平成30年度に比べて改善は図れているものの、やはり課題として残る部分が多くあります。ちょうど最近、全国的な調査が行われましたが、全国の状況から見れば宮崎市の取組は進んでいるようには思います。平成30年から31年にかけて、多くの自治体が学校の働き方改革に取り掛かっていて、全国的に現在は若干中だるみといえますか、改善幅が少し減っている傾向にあります。このような時にこそ、教育委員会としては、しっかりと協議をしながら、確実に各取組を進めていきたいと考えています。説明は以上です。</p>
清山市長	<p>ありがとうございました。ただいま、宮崎市の学校における働き方改革の取組について説明がありましたが、これから感想をふまえながら、「新しい時代の教育を見据えた学校における働き方改革について」、意見交換をお願いします。</p>

	<p>いします。自由にお話しただいて構いません。また、もし補足や意見がありましたら、それに対しても発言をお願いします。</p>
松尾代表教育委員	<p>学校における時間外勤務時間の縮減は、私がちょうど15、6年前に教職員の人材育成を担当していた折にも取り組んでいた課題でした。このことをふまえれば、働き方改革は昔からの要請であり、新しく必要性が認識されたものでもあると捉えてよいのかもしれませんが、しかし、以前と違い、現在は教職員の時間外勤務の時間がわかりやすく可視化されたことで、社会問題として提起されて、大きく取り上げていただいている状況です。教職員の働き方が焦点化されたことは非常に有難いことで、私は、10数年前と現在とでは本気度が違うと思っています。働き方改革に取り組む際には、要素として、学校組織、教職員一人一人、それからもう一つ、後押ししてくれる行政側のアプローチ、これら三者がうまく繋がってより効果を生み出せるものではないかと考えています。本気度と表現しましたが、つまり、先ほど教育長の説明にありましたように、行政と学校、それから教職員一人一人が、非常に意識高く改革に取り組んでいただいた成果ではないかと思います。</p> <p>具体的に言えば、環境整備がだいぶ進みましたよね。制度面については、出退勤時刻の把握や留守番電話の設置、統合型校務支援システムの運用、部活動の休養日設定、ICT環境の整備等が進められていますし、それから、やはり積極的な人材の事前投資がよかったと思います。サポートする人材は1人でも多い方が学校としても適切に役割分担ができます。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門職が配置され、特に最近事務補助をするために配置されたスクール・サポート・スタッフは全校に配置されたということで、人的資源が充実してきたと思います。</p> <p>また、保護者や地域社会の理解がなければ、学校の働き方改革はなかなか前に進みません。アクションプランにもありますように、行政が主体となって働き方改革についての周知を行ってきたので、時間外勤務の時間縮小に繋がったのかなと思ったところです。以上です。</p>
清山市長	<p>ありがとうございます。他にありますか。</p>
畠山教育委員	<p>やはり、学校が本来すべきことや、何をすべきなのかというところに焦点を当てていただくと、おのずと先生方の働き方改革が何故必要なのか見えてくると思います。先生達が忙しければ、子ども達に目が行き届きにくい状況があると伺ったことがあります。スクール・サポート・スタッフのように校務を助ける存在が大きな力になることは、先ほどの説明にあったアンケート結果から明らかで、先生達の満足度が高いこともわかります。全校に配置されていることは、本当に有り難いことで、スピーディーな対応だったと思います。ただ、やはり児童生徒数の差といたしますか、小規模な学校もあれば、生徒数の多い学校もありますので、それに見合ったスクール・サポート・スタッフの人数を配置していただくとよいのかなと感じているところです。</p> <p>また、地域、学校、そして家庭と繋がっていく、この良い循環を展開してい</p>

	<p>くことが、これからの改革において大きなプラス要素になっていくのではないのでしょうか。先生になりたいという気持ちが高まれば、人材の育成にも繋がっていきます。学校の先生のブラックなイメージを払拭して、教師という仕事が子ども達にとって憧れの職業になってほしいです。私も実際、子どもの頃は、学校の先生に憧れていました。結局、だんだんとやりたいことの方角性が変わって今は別の仕事をしていますが、夢のある学校現場について子ども達に思いを伝えていけるよう、地域、学校、家庭の連携が取れた体制を築いていければよいなと考えています。</p> <p>用意していただいた資料から、本市でも様々な取組が活発に行われてはいることはわかるのですが、やはり、宮崎ならではのところで、今後の展開に期待しているところです。</p>
清山市長	<p>スクール・サポート・スタッフは、全校に1名ずつ配置されているんですか。たとえば、鏡洲小学校にも1人、加納小学校にも1人といった形で、学校の規模に関わらず配置されているのでしょうか。</p>
西田教育長	<p>県が交付金を活用したことで財源を確保できたので、全校に1名配置されています。プリント準備の手伝いや印刷、コロナの消毒作業等様々な仕事を行っていただいているので、非常に助かっていると伺っています。</p>
清山市長	<p>私としては、規模に応じた配置でもよいのかなと思いますね。確かに児童生徒数が多い学校にとっては、そのような役割の方がいらっしゃるとういのですが、少人数校にとっては必要でない場面もあるかもしれません。</p> <p>あと、これほど教頭先生の時間外勤務が多い状況で、教頭先生や副校長等いわゆる管理職における女性の割合は把握されていますか。</p>
西田教育長	<p>おおよそ、全体の一割程度です。やってみませんか、とお声かけはするのですが、家庭の事情や、やはり管理職は大変だというイメージが強いのかなかなか希望者が増えない状況で、大きな課題の一つです。</p>
清山市長	<p>昇任の希望調査で決める流れなんですか。</p>
西田教育長	<p>宮崎県教育委員会が教頭採用試験の募集を行うので、そのタイミングで市教育委員会から個別に、県が今募集しているので受験してみませんか、とお声かけすることがあります。</p>
清山市長	<p>そうなんですね。やはり、このような勤務実態だと及び腰になるだろうなと思います。家庭で主に女性が家事を担っていることが多いでしょうから、このような働き方はできないでしょうね。</p> <p>これは市長部局においても同様ですが、管理職に女性の方々がもっと増えていくと価値観も変わっていくし、組織ルールも変わっていくと思うんですけども、そのためには女性のワーク・ライフ・バランスが保たれる働き方にならないといけないという問題意識を持っています。</p>
西田教育長	<p>ただ、管理職採用において改善されたことはあります。エリア採用が行われるようになったことです。たとえば宮崎市在住の方が希望すれば、その管内で教頭先生になれるというものです。これまでは採用後に居住地から遠い学校に</p>

	<p>赴任することになり、家庭から離れなければ働きにくくなるという実態がありましたが、エリア採用により近い場所で働けるようになりました。</p> <p>しかし、市長の言われるように時間外勤務の実態を考慮すると、子育てや介護との両立は難しいと思います。</p>
清山市長	<p>そうですね。教頭先生の勤務状況の改善については、特に思い切って頑張らないといけないなと思いましたけどね。他、いかがでしょうか。</p>
小林教育委員	<p>まず、市教育委員会の取組に関する感想を一言申し上げます。やはり様々な改革にあたっては、どこにフォーカスし、方法からデザインするのか、あるいは目的からデザインしていくのかを考慮することが重要だと思います。</p> <p>先ほど松尾代表もおっしゃったように、アクションプランは非常に丁寧にできていて、なおかつ、それが何度も繰り返し周知されていますよね。そこでは、先生方に対して業務の効率化を求める一方で、ではどのような効果が上がっているのか、あるいはどのような魅力的な取組が実践できるのかという、いわゆるエビデンスを具体的に示す必要があります。たとえば、学校教育課がきめ細かに学校指導をしていたり、教育情報研修センターが先生方に魅力的な研修を行ったり、企画総務課が未来の教室において目指す子どもの姿をビジョンで示して、そのための戦略デザインを示したりしているんですよね。そのようなことを繰り返し、教育委員会の各課が総出で具体的に取組を進めているところは、非常に大切な視点かなと思っています。それぞれの取組が一つ、一つ結集されて、結果的に目的と宮崎市として目指す在り方について、明確なビジョンが示されていくことになると思います。</p> <p>市の各取組を引き続き推進しながら、先生方に対して、それでは教師は何ができるのか、そこを具体的に示していけるものになるとよいと思いました。</p>
片山教育委員	<p>私は保護者の立場でもありまして、中学生1人と小学生2人がお世話になっているのですが、やはり働き方改革は、しっかりと進めていただきたいです。</p> <p>このアクションプランの全体構想に至るまでの部分になると思うのですが、家庭において親が元気だと子どもも嬉しく、そして、子ども達が大半の時間を過ごす場である学校においては先生達が生き生きと過ごせていなければ、子どもも学校に行きたいという気持ちになれないと思うんです。先生達がやらなければならないことが多くて、疲弊感があつたり残業が多かったりすると、どれだけ志をもって教師の役目を果たしていこうと思っても、なかなか難しいところがあるのかな、と。皆が生き生きとして楽しく過ごせるようにすることが、先生と子ども達がそこに行きたいという気持ちになれる根本の部分になると思います。そのため、先生達が楽しく生き生きと働ける環境は、本当に大切なものだと思います。</p> <p>今日も全国版のニュースで教員の平日一日の実質的な勤務時間が平均で11時間を超えていると報じられていて、それに対するコメントもあり、全国的に先生方の働き方への関心が高いことが伺えました。</p> <p>また、先ほど教育長の説明にありましたが、スクール・サポート・スタッフ</p>

	<p>が72校に配置されて、100%に近い小・中学校が時間外削減効果があると感じられていることは本当に有難いことだと思うんですけど、私としては専門職を学校の中にもっと積極的に配置していくべきだと感じています。昨今、良くも悪くも多様性が社会の中で重視されつつあって、様々な保護者や、様々な家庭の子ども達に対応していくにあたり、先生だけでは見えないこと、わからないことも多くあります。そういった面を先生だけが担う状況は課題ですから、そこに専門職が入って、様々な視点から適切に判断して解決すべき方向性を考えて先生に共有することで、先生は負担感や不安を軽減した上で子ども達に向き合うことができます。そういった多種多様な対応ができる学校を考えていけたらよいなと思います。</p> <p>そのために予算や専門職の人員を確保することは非常に大変でしょうが、専門職が入るか入らないかで対応にあたってのスピードも異なると思います。</p> <p>先生がプロとして、つまり教育の専門職として担う時間は、つまり子どもと向き合う時間です。この時間が増えることは、保護者として有難いことです。かつ、先生が元気に働けることが重要です。子どもの教育のためにも、私達大人が先生達が働きやすい環境づくりを進めなければならないと思います。</p>
清山市長	専門職というと、心理士や福祉職ですか。
片山教育委員	<p>そうですね。今、宮崎県のスクールカウンセラーは約80名ですかね。スクールカウンセラーは大体一人が同じ学校に行くと思うんですけども、スクールソーシャルワーカーは市には5名だけです。他県の市町村ではスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを1校に1人あるいは1中学校区に1人、配置できている地域もあります。専門職の方に入っていくことは、大きな意義があると私は思いますし、宮崎市には子どものための資源が多くあるので、そこを繋ぐことができるプロがいれば非常に心強いです。先生方の負担の軽減にもなりますし、子どもと向き合う際に、一方向の視点だけではなく、様々な方の視点があるのはとても大事なことだと思います。</p>
松尾代表教育委員	<p>今、片山委員がおっしゃった人員の配置について、私はこれまで様々な市町村を見てきましたが、宮崎市は充実している印象はあります。</p> <p>特別支援教育は、今、非常に厳しい問題が数多くあります。子ども一人一人に寄り添うスタッフであるスクールサポーターや、教員に変わって家庭訪問をしたり別室で個別指導をしたりといった不登校児童への対応を行うスクールアシスタント、今後を見据えてICT環境をどう活用していくか相談できる情報教育アドバイザー等、先生達を引っ張ってくれる専門職がどうしても必要です。このような方達の配置については、毎年、宮崎市は充実してきていると感じています。</p> <p>やはり、現在の課題と将来を見据えた教育についての研修や、先生達がすぐに授業に役立てられるような補助を行える人材の配置、また実際に人員を配置した後どのよう効果的に活用していくのか、それぞれの学校の取組が今後重要になってくるのかなと思います。</p>

清山市長	一般的に先生方は、研修を受けたり、独学をしたりする時間や余裕はあるんですか。どのような状況なんでしょうか。
松尾代表教育委員	先生方の学び方としては、その内容について詳しい方が中心に引っ張っていくことが多いと思います。勿論、熱心に自己啓発されている先生もいらっしゃるでしょうけれども、私のようにICTに弱い方はどうしても誰かに頼らざるを得ないことがあります。そのような時に、市から派遣していただいた方を中心に、また学校で専門的な知識を持った先生を中心とした各サークルを基にして、広がっていくこともあるようです。
清山市長	先生方の、年間研修スケジュールは組まれているんですか。
西田教育長	はい、決まっています。テーマを決めて校内研修を実施している学校が殆どです。それ以外にサークル活動があって、たとえば、特に年配の方はタブレットが苦手なのでミニ講座をしている学校もあります。ただ、そのような機会は昔ほど多くないのかな、と感じています。昔から先生方の時間的、精神的なゆとりはそれほどなかったとは思いますが、そのような活動はよく行われていました。最近は業務に追われて、活動が減ってきているんじゃないかなと予想はしています。その辺は、何とかしてあげたいなと思いますね。
清山市長	<p>20～30年前と比べて、共働き家庭が増えているんじゃないかと思います。核家族で両親が働かなければ経済的に厳しい、家庭のことに二人で取り組まざるを得ない、昔のように男性は仕事だけやっていたらいいという環境も変わってきたという気はします。</p> <p>学校の働き方改革において、時間を削減するのはあくまで手段であって、目的は本来どのような教育をしていくのかということにあります。</p> <p>私の個人的な分野のことで恐縮なんですけれども、医療の世界でも、とにかく根性論で、頑張ればそれが認められて評価に繋がると思っていた時代が続いていました。日本は特に顕著で、特に外科医は当直の連続で家に帰らず、寝ないで手術に臨んでスキルを身につけていくことが尊重されていたことが長く続いていました。しかし、やはり寝不足状態は、いわばお酒を飲んで酩酊状態のまま手術に臨むようなものだという科学的な分析検証が進んで、外科医、ドクターといってもしっかりと勤務時間を管理すべきだとして改善を図ったところ、手術後の患者の容態が改善して、医療事故も減りました。医療安全管理上、勤務時間のコントロールは非常に重要だということがわかってきたんですが、学校現場でも、とにかく朝早く来て夜遅くまで残ることが良いことだと思っただけの方ももしもいらっしゃったら、考え方を少し変えていかなければいけないんじゃないかと思います。</p> <p>先ほど申し上げたように、若い世代の教員の生活環境も昔とは大きく変わってきましたし、どうしてもそのような変化に合わせていかなければいけないでしょうね。</p>
小林教育委員	先ほど片山委員が、先生方が元気で生き生きと働けるようにならなければならぬとおっしゃっていたことに関係しますが、やはり、働き方改革をもって

	<p>先生方が元気になり、結果として業務の効率化だけではなく、教育の質を向上させることで、子ども達の未来へしっかり還元されていかなければならないということになると思うんですね。</p> <p>改革で見出された時間やゆとりで、しっかりと子ども達に向き合える余裕が生まれます。あるいは、先ほど研修の話題がありましたが、「学び続ける教員」については中央教育審議会の中でも昔からよく言われていて、セルフディベロップメントとして先生達が外部研修等や自己研鑽で読んだ本で教育に有効だと思うものがあつたら他の教員にこのような事例があると紹介したりする、いわゆる先生達が学び合う時間が非常に大切です。そのような時間が確保されて、保障されて、結果的にしっかりと子ども達に還元されていけば、つまり先生達の元気のある活動は本当に子どもに還っていくといえます。</p> <p>結果として、未来への投資という点で、子ども達のために行えることの 하나가、実はこの学校における働き方改革だといえますから、皆で後押ししながら、先生の意識改革も含めてですけども、進めていけるとよいと思います。</p> <p>また、先ほど説明の中でも挙げられた地域との連携も大切ですよ。今後、宮崎市としてコミュニティ・スクールは令和5年度までには全校に設置することとなっています。結果的に地域の方と一緒にあって、子ども達の未来のために先生達は何ができるか、そして先生達が大変なところを地域はどうすれば助けられるかといった視点で連携が深まっていけば、きっと最終的に子ども達の普段の様子や学力、友人関係についても地域の方が声かけしたり相談に乗ったり、関わり方が変わっていくのかな、と。そのような点で、家庭・地域との連携・協働というところにも、大変期待しているところです。</p>
清山市長	<p>先週、児童相談所の視察で金沢市に伺ったんですが、10数年前まで市長を務めていた山出元市長は子ども達の教育や福祉に熱心な市長で、金沢市の子ども達は金沢市で守るというコンセプトを持つ方でした。地域政策においても、それぞれの町内会で地域の子を達を見守る、子ども達を金沢市が一つの家族として育てていくという意識が非常に強く市内に浸透しています。コミュニティ・スクールは既に市内全域で設置完了していて、町内会の役員の皆様も一緒に子ども達を見守り育てていこうという、意識の違いを感じました。</p> <p>高齢者の老後の生きがいは勿論重視すべきですけども、宮崎市については、定年退職をした地域の方々にもう少し、そのゆとりを子ども達にも向けていただきたいなと個人的には思っているところで、このコミュニティ・スクールの取組もこれから非常に重要になってくるだろうと思っています。</p> <p>さらに金沢市のことを申し上げますと、金沢市は福祉と教育の一体化が進んでいて、児童相談所がある教育プラザには、教育委員会の職員達と本市でいう子ども未来部の職員達と同じ部屋にいる部署があり、毎年児童福祉の研修会等を一緒にやっているそうです。児童相談所がある場所が本市でいう教育情報研修センターになっていて、教員が毎年そこで福祉専門職からの研修を受けられるそうです。また、金沢市は市に児童相談所がありますので、それぞれの学校</p>

	<p>担当の児童相談所職員が割り当てられて、小学校3校につき1人がついていたり、児童相談所に児童福祉士が配置され、「何かあったら私に相談してください」と声かけされていたりと、児童相談所にいる専門職と学校との距離が近く、顔の見える関係を築いていました。</p> <p>今はなかなかそのようなことがなくて、宮崎の場合は児童相談所は県の組織であって、よほどのハードケースでないと深く関わらないこともあると思うんですけれども、金沢市のように福祉と教育の距離が非常に近い事例を見ることができましたので、この場で共有させていただきました。</p>
西田教育長	<p>時間外勤務の縮減が進まない要因についてのアンケート結果では、児童生徒の実態に応じた生徒指導や特別支援が多かったです。丁寧な対応が必要ではあるんですけども、時間外対応となるケースも出てしまう、と。結局、教員が自分達だけで何とか対応しようとしても限界があるんですよね。ですから、今おっしゃった教育と福祉の一体化の一例にあったとおり、専門的な知識を持っている方が身近にいらっしゃると状況は変わってくるのかもしれない。</p>
清山市長	<p>発達にでこぼこのある子ども達から重度の自閉症を抱える子ども達まで様々ですが、対応には専門的な知識やスキルが必要な場面があるので、ケースによっては、確かに先生方がやれることの範疇を超えてくると思うんですよね。</p>
西田教育長	<p>今、ヤングケアラーについては、教育委員会で事実を確認して、福祉関係の部署と話をすることが少しずつできるようになってきています。そのような事例を増やして、お互いに情報交換し合えるようになるとういと思うんですが。</p>
清山市長	<p>不登校にしろ、特別支援教育にしろ、やはり福祉分野が関わってきますから。</p>
西田教育長	<p>我々としては地域と学校の連携を一緒に進めていこうと一生懸命取り組んでいますが、様々な青少年育成団体の方々と話をする中で伺ったのは、働き方改革だからと学校が閉じてしまうことがあるのは困る、要は、学校だけでは担えないとされる業務の範疇について、学校が一切携わらないとなると、地域としてもなかなか引き受けられないということです。地域の青少年育成団体の方は、皆様、懸命に活動されているのですが、あくまでボランティアなんですよね。教員がそういった場に全く行かないし関わらないということでは、社会との連携、地域との連携はうまくできません。非常に困っているところです。</p>
清山市長	<p>P T A活動はよく土日に行われますよね。また、地域の方は夜に集まることもありますし、教員の時間外勤務とジレンマになりますね。</p>
松尾代表教育委員	<p>地域に対して学校の働き方改革への理解と支援を求めなければならない部分はありますが、相互的に、学校からも地域に対して何かをすべき部分があると思うんです。働き方改革を推し進めようとする、時間外勤務との兼ね合いで地域との繋がりをシャットアウトしてしまう状況も確かに出てくるわけですよね。管理職が何が大切なことなのかを見極めて整理し、きちんと理解が得られるように教職員に説明しなければならないし、あるいは地域の方とも相談しながら、連携していかなければならないのではないのでしょうか。</p>
清山市長	<p>あくまで必要のないことやI C T等で効率化できるところはしっかりと削ぎ</p>

	<p>落としていっても、やはりどうしても時間外対応が必要になる場面は残ります。</p> <p>私は保護者の立場ですが、先生方が毎日、子どもの自宅学習や日記に一つ一つ目を通されて、毎回丁寧にコメントを書いてくださっているのを見ると、そこまでしなくてもいいんじゃないかな、と思うこともありますね。もう少し手を抜いても、子ども達の教育や学習には特に直接的な影響は出ない業務があるのではないかな、と思います。</p>
畠山教育委員	<p>確かにおっしゃるとおりで、先生方の意識改革も大きなポイントになりますよね。これだけ働き方改革について様々な工夫を凝らして、知恵を絞りあって創出できたその限られた時間を、先生達がどのように活かすのかという意識改革も大切だと思います。また、予算のこともあるのでなかなか申し上げにくいんですが、教頭先生が朝早く出勤して夜遅くまで勤務する実態は、たとえば民間の力を借りて警備会社に入っていただくという手段もあると思います。</p> <p>また、働き方改革については保護者対応も大きな課題だと思います。保護者の方も初めから保護者だったわけではなく、子どもを授かって出産して、乳児期、幼児期という段階を経る中で、いかに周囲に相談をして悩みや不安に対する突破口を開いていくのか、いわゆる大人の自覚が必要になります。</p> <p>妊娠、出産の段階で周囲に相談できる仕組みづくりとしては、兵庫県の明石市で年10回、おむつを含んだ3,000円相当の赤ちゃん用品を見守り支援員の方が配達してくれる「おむつ定期便」というサービスがあって、その機会に育児の相談をすることができます。</p> <p>子どもが幼いうちに保護者の方が周囲に相談できる、孤立しない流れができていれば、子ども達が学校に入学した際に生かされていくのではないのでしょうか。時間がかかることかもしれませんが、大切なことだと思います。</p>
清山市長	<p>確かにそうですね。子どものことだからと全て学校に言うのではなくて、保護者側の意識を変えていく必要もあると正直思います。</p> <p>あとは、給食費は口座振替が進む中、未だに一部の学校で手集金が残っていることがあるようです。他にも、ベルマーク回収は今もやっているんですかね。あのような活動が慣習やノルマになっている場合、保護者側は子どもが卒業するまで我慢すればよいと思っていることもありそうですね。先輩・後輩関係等に配慮して、保護者活動の見直しが進まない部分もあるのかもしれません。</p>
松尾代表教育委員	<p>確かにそのような前例踏襲といいますか、先輩がやってきた活動や手法は続けられないといけない、自分の代で変えたくない、という気持ちはあるのかもしれませんね。しかし、やはり手段と目的を間違っただけではいけないので、取捨選択すべきことの見極めや、負担は軽減させつつ目的は達成できるような工夫等は必要だと感じます。</p>
清山市長	<p>特にこの10年から20年は世の中の変化が早かったので、一般の民間会社では、仕事の進め方や連絡手段もどんどん変わっています。正直、保護者目線では、点検や管理上の理由もあると思うんですけども、学校はアナログな部分が多いです。プリントの数も多いですよ。どうしてもそのように感じる</p>

	<p>方々はいらっしゃると思います。保護者が頑張っていて変わろうとする、その推進力は学校のどこかにも必要だろうと思います。</p>
小林教育委員	<p>今、いただいた言葉を少し考えていたのですが、松尾芭蕉の言葉に「不易流行」という言葉がありまして、そのバランスを先生方が非常に大切になさっているのではないかなと感じました。</p> <p>たとえば、学級日誌にコメントを書く先生は、あえてそれを手書きで記入することで自分の思いを保護者や子どもに届けたいという気持ちが強いのかもかもしれません。その先生にとっては、他業務と比較しても日誌の記入は優先順位が非常に高いものである可能性があります。</p> <p>確かにGIGAスクールの関連で、授業で端末が活用でき、利便性も高まって、効率的に様々な業務を進められるようになりました。そうになると、何を優先したいか、それぞれの先生の考えがあると思うんですね。そのような状況で、手書き文字の優しさやあたたかさを大切にされている先生の思いは、どれほどGIGAスクールの取組が盛んになっても完全にはなくなれないのかな、と学校に出向いていると思います。教室に貼ってある子ども達の作品にも、わざわざ先生方が朱書きでメッセージを添えていて、非常にあたたかい雰囲気が感じられたんですね。そのようなこともきっと学級経営の一環であって、子ども達との一体感を生むための取組かと思います。</p> <p>そもそも先生達が教師になった背景に、子ども達と丁寧に触れ合いながら、思い出を多く作ってあげたいという思いがあるのかもかもしれません。私達は今後、働き方改革を推進していく中でも、先生達のそのような思いは大切にしたいと日頃から思っています。</p>
清山市長	<p>それが全ての先生方の思いであれば、本当に素晴らしいと思います。ただ、こうやらないきゃいけないから、と無理をしている場合は問題ですよ。しかし、先生方のそれぞれの思いを込めた取組は尊重したいと思います。</p>
西田教育長	<p>話を聴いていて、学級経営の中で何を中心にするのか意識することは大切ですが、本当に目的に合っているのか、先生方が考えていかなければならない時期にきていると思いました。</p> <p>私が教師だった際にもやはり、子どもとの日誌でのやりとりは大切なものでした。何故かといいますと、学級には約40人もの子どもがいて、全員に声を届けられるのはその時だけだったからです。その子の生活の様子や気持ちは、日誌からよく把握できましたから。ただ、学級通信等は毎日ではなくて、週1回のペースでもよいのかなと思いますね。</p> <p>全ての時間を使えるわけではありませんから、どこかで区切りをつけないといけません。そこはマネジメント的な部分ですが、そのような見直しは必要かなと感じました。</p>
清山市長	<p>担任の先生が作成されている学級通信は、毎回丁寧ですごいなと思います。</p>
松尾代表教育委員	<p>確かに、何に力を注ぎたいかは先生方の価値観の違いもあるかもしれませんが、やはり時間は限られていますので、総合的に見てここには時間はかけられ</p>

	<p>ないと判断されることがあると思うんです。その業務が本当に子ども達のためになっているのか、そのような振り返りは必要ですよ。</p> <p>宮崎県の教職員評価制度というものがあるんですが、一対一で、校長は先生達と年に3回ほど面談をするんですね。校長が先生の取組を評価したり、見直しを促したり、業務改善に繋げることができます。先生方は面談を経てやり方を見直したり、管理職は先生の思いを聴き取ったりして、共に考えていく機会や時間でもあるんです。そのような時間に、先生方には自分のやり方を再確認していただくと有り難いかなと思います。</p>
清山市長	<p>他に何かご意見はありませんか。また、市長部局に何か求めたいことがありますか。お金と人の話でも、とりあえず発言いただければ。</p>
畠山教育委員	<p>やはり、お金と人の話になってしまいますよね。</p>
松尾代表教育委員	<p>人ですね。人が一人多ければ、その分業務の負担が軽くなるし、片山委員がおっしゃったように専門職の方がいれば難しい部分はお任せして、先生は授業改善や子どもと向き合うことに力を入れることもできます。人員を配置するにも学校規模によって要件があるでしょうが、やはり人員の支援や補助が大切だと思います。</p>
片山教育委員	<p>地域活動やPTA活動と先生方の時間外勤務の兼ね合い等の話も多く出ましたが、最後は子どもに関する情報が先生に返る仕組みがあるべきですよ。夜に見回りをされる方が、何か課題を見つけたら先生に伝えて、そのことについて皆で話し合える仕組みや場所ができればよいのかな、と思います。</p> <p>先生方には教師として、子ども達を直接見守りたい、大変だけれども関わりたいという気持ちもあると思います。そのため、最後には先生が現状を把握できる状態にするとして、それまでの過程は専門職や地域の方に任せられることができる、学校だけではなく皆で子ども守るという一つの仕組みを作って、皆で課題や取り組むべき内容について共有できるというようになればよいな、と。</p> <p>子どものことを想ってくださる方は多くいるのに、なかなかうまく繋がらないことがあります。どこに連絡をしたらよいのか先生方も保護者もわかっていなかったり、地域の方も何かやりたいんだけどどう関わればよいかわからなかったり、そのような部分がうまく繋がれば、宮崎市ならではの良い体制ができるのではないかと思います。</p> <p>金沢市の事例も伺いましたが、他にも、たとえば福岡市で警察と連携した取組も実践されていますので、そのような事例を参考にして是非、宮崎市でもそのような取組ができればよいなと思いました。</p>
清山市長	<p>そうですね。家庭と地域と学校とがありますが、当然情報は学校の先生方と共有できる仕組みが必要だと思います。</p> <p>一方で、子ども達の学力や育ちって、学校と家庭で半々を担うのだろうと思うんですけども、その家庭の部分について、現在は様々な課題を抱える家庭が非常に増えているのだろうと思います。そのような情報は学校でも共有するけれども、課題解決や支援については、しっかりと福祉面で行政も支えていか</p>

	<p>なければなりません。生活保護世帯等への学習支援のためのコラッジョという場所もありますが、そこも拡充していかなければなかなか現状に追いつかないという話も出ていますし、それから、不登校になった子ども達への教育支援教室も拡充をしなくてはならない。他にも、フリースクールについても動きがありますし、非常に対応が多様化していることを感じます。</p>
西田教育長	<p>コミュニティ・スクールでの寺子屋教室や、大宮地区での不登校支援等、少しずつコミュニティ・スクールが広がりつつあって、様々な取組が実践されています。宮崎市の取組はどんどん発信しているので、G o o g l eで「コミュニティ・スクール」を検索すると、実は上位に表示されます。他地区の事例を見ていただいて、自分の地域や学校だったら何ができるか考えていくことが広がっていけば、各地区での活動が盛んになって、地域の方の参画によって先生達の時間的・精神的なゆとりに繋がるのかなと感じました。</p>
清山市長	<p>お金と人の話ですが、今はなかなか財源が右肩上がりに増えていく時代ではなくて、しかし、その中でも限りある財源を可能な限り子ども達のための政策に振り分けたいという思いはあります。それでもどこかで限界があって、家庭だけでは課題を解決できなくなり、子ども達自身も多様な課題を抱えていて、そこにさらに資源が必要になってきた時に、それではどのように選択と集中をしていくか、考える必要があります。</p> <p>子どもの数は年々減っているけれども、学校施設は残してほしいという声もあって、しかし現実を見ると、どうしても統合していかなければならない部分が出てきます。子どもの数が少なくなってきた学校はもう少し統合を進めて、そして限りあるお金と人材はしっかりとそこに手厚く投下していくという考え方を取らざるを得なくなってくるのかなと思っています。このようなことについては、予算を持っている部局だけが言い続けてもなかなか進めていくことが難しいので、全体で考えていかなければならないと思います。</p> <p>最後に、それぞれご感想をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。お一人につき、1分を目安にご感想をお願いします。</p>
松尾代表教育委員	<p>教育委員会が取り組んでいるアクションプランが功を奏して、右肩下がりに時間外勤務の時間が減っていて、一つの成果として表れているのを嬉しく思います。また、市としても、人の配置や制度面での充実のためにお金をかけていただいています。</p> <p>今後は正念場になると思いますが、これから何が課題になっていくか考えると、やはり、現時点で配置されている人材や制度について、どのようにさらに充実させていくかということです。要するに、今、制度が効率的に運用されているのか、しっかりと分析しなければいけません。人材は配置した、制度は作った、それだけで終わるのではなくて、これをいかにして学校側が、たとえばコミュニティ・スクールと協働する等、効率よく運用できるのかで効果はさらに変わっていくのではないのでしょうか。そのようなことを考えていくことが、今後大切になってくると思います。</p>

	<p>もう一つ、働き方改革のアクションプランの最終的な成果は、児童生徒に還元されていかなければならないという点を考慮した際に、子ども達が学校生活に充実感を得られているのかも評価していかなければならないのかなということ、本日の意見交換の中で感じました。本日はありがとうございました。</p>
<p>片山教育委員</p>	<p>私も学校の教員ではないので、いつも学校の先生の視点ではないところからお話をさせていただいていますが、子ども達に関わる中では、常に全てのことをマズローの欲求5段階説に当てはめて考えています。生理的欲求、安全の欲求、社会的欲求、承認欲求、自己実現の欲求の5階層あるうちの、先生達の安全の欲求や社会的欲求が満たされれば、子ども達も同じように満たされると私は思います。このアクションプランの中に全ての階層が含まれていると思いますが、これが全て叶えられていけば、もたらされる効果は揺るぎないものになっていくのかなと思います。</p> <p>部活動に関しても、先生達の負担が軽減される先に、子ども達の第三の居場所づくりや地域の人達と話をする場、これは学校の先生ではなく、お母さん、お父さんでもない人と相談できる場をつくっていくところに繋がっていくことになると思います。</p> <p>アクションプランは本当に素晴らしい内容なので、そこで叶えるべき安全の欲求、社会的欲求をきちんと固めたうえで、承認欲求や自己実現の欲求に繋がっていくような学校現場になればよいと思いますし、保護者として、地域の一員として微力ながらも何かお手伝いできることがあればと日頃から思っているところです。以上です。</p>
<p>小林教育委員</p>	<p>これまで、様々なデータを示しながら説明がありましたが、そもそもこの問題の所在というのはどこにあるかをずっと突き詰めていくと、やはり、教師の働き方をどう効率化するかというよりも、最終的には教師が心身共に満たされた状態で子ども達の未来のために質の高い教育を展開していけるようにすべきだということですね。そこを、私達は見失わないようにしなくてはならないと改めて感じました。</p> <p>そのためには、すぐに取り組めることもあるかもしれませんが、教育については、成果を生み出すのに若干時間を要するところもありますので、短期的、長期的な将来のイメージを持ちながら、学校と一緒に支え合える関係でいられたらよいなと思いました。以上です。</p>
<p>畠山教育委員</p>	<p>今日は、清山市長との初めての総合教育会議ということで、このような時間をいただけたことを非常に有り難く思いました。また、ご自身の体験として学級通信のお話があり、市長の日々の姿を垣間見ることができ、非常にあたたかさを感じました。宮崎市は、山あり川あり、自然豊かな地域性が非常に多くありますので、それを生かした先生方の活動が、先生方にとって大きな一つのステップアップになるとよいなと思ったところです。</p> <p>やはり地域の力、家庭の力、学校の力、それぞれが合わさって初めて様々な取組や実践がうまくいくようになると思います。</p>

	<p>今後のことを考えると、どうしても人やお金の話が出てきますので市長にはお世話になりますが、今後ともどうぞよろしく願いいたします。</p>
西田教育長	<p>我々は教育行政を担っていますので、やはり、しっかりとしたエビデンスを持って優先順位を決め、教育施策を進めていかなければなりません。予算には限界がありますので、そのような点をしっかりと見定めながら働き方改革を進めていかなければならないと強く感じたところです。</p> <p>一方で、予算のかからないコミュニティ・スクールや地域との連携という部分については、地域の人達に負担感ではなく生き甲斐を持ってもらえるように、またその生きがいや先生や子ども達に伝わるように、いかに地域の力を引き出していくか、このような部分が一つ、今後しっかり取り組んでいくべきところだと思いました。本日はありがとうございました。</p>
清山市長	<p>皆様、ご感想ありがとうございました。</p> <p>最後となりますが、本日、この会議開催にあたりまして、お時間を割いていただきありがとうございました。自由なディスカッションだったため、私も様々なお話をしてしまいましたけれども、我々は教育委員会に対する市長部局としての考えを共有し、市民の皆様の民意を受け止めて教育行政に対してその思いを伝えるという役割を担っていると考えています。今後とも、様々な角度から意見交換をさせていただければよいと思いますし、また、一緒になって、教育行政の推進を図ることができれば幸いです。どうぞよろしく願いします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和4年度宮崎市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。</p>